

# 2013年春「消費者のくらし向きに関するアンケート」調査結果

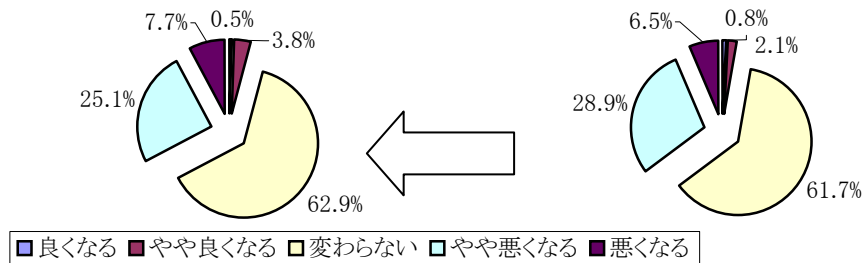
くらナビ(公益社団法人ふくい・くらしの研究所)は、標記アンケート(2013年3月実施、無作為抽出した県民せいきょう組合員2,500人対象)を実施し、969人から回答を得て集計しました。くらし向きや家計支出、旅行、貯蓄、夏のボーナス、お中元等についてお聞きしたところ、以下のような傾向が見られました。

1. 今後半年間の「くらし向き」や「収入」の消費者マインドは、昨秋調査と比べて向上しました。

「くらし向き」の※1D. I. 値は、12年秋▲32.4⇒13年春▲28.5と3.9ポイント向上しています。「くらし向き」が『やや悪くなる』および『悪くなる』と答えた方の合計が32.8% (昨秋35.4%)と減少したためです。子ども手当が効いているのか、35歳未満の子育て層の「くらし向き」D. I. 値は他世代よりも良くなっています。その結果、「収入」▲11.1(シニア層は▲42.7)、「支出」40.1(シニア層は▲5.4)と消費意欲が高まっています。また、最近の円安・株高傾向や、米国経済の持ち直し(住宅産業の回復・安価なシェールガス算出)等が、消費者に明るさをもたらしていると思われます。

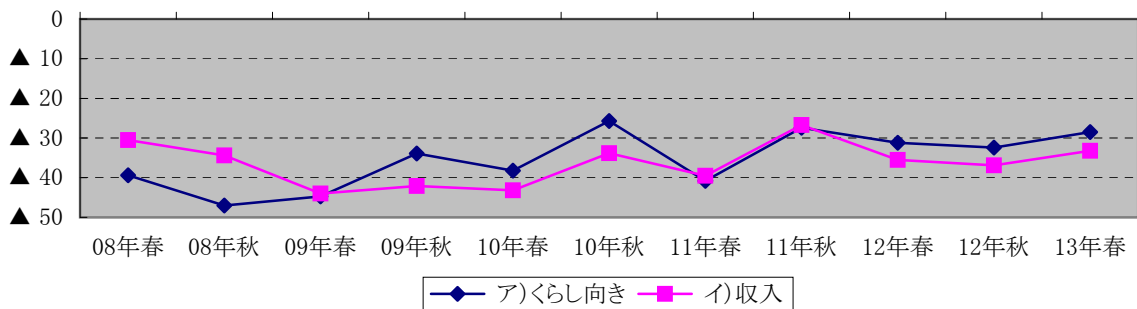
●家計費目別では、依然として「被服費」や「家電・家具」「光熱・水道費」の支出を大きく減らす傾向が見られます。昨秋の調査と比較すると、「光熱・水道費」はさらに『減らす』という回答が増加していますが、「通信費」は『減らす』という回答が減少しています。

今後半年間の「くらし向き」13年春調査(D. I. 値▲28.5) 今後半年間の「くらし向き」12年秋調査(D. I. 値▲32.4)



「くらし向き」「収入」のD. I. 値経年変化

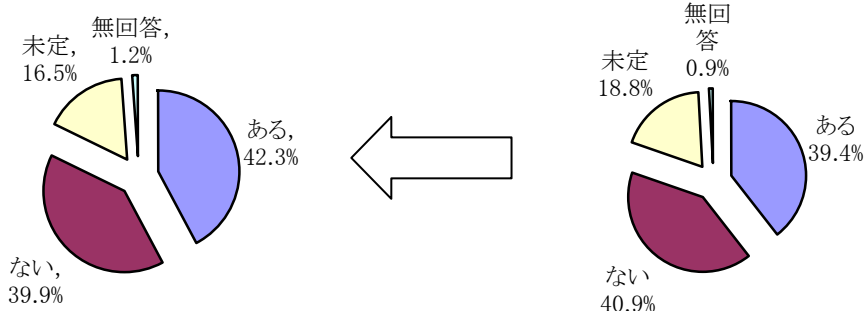
※08年秋:リーマンショック、11年春:東日本大震災



2. 今後半年間の旅行の予定は、「ある」が「ない」を上回り、前回調査より改善しています。シニア層の旅行意欲が高く、逆にファミリー層は低くなっています。旅行先は国内比率87.6% (昨秋67.0%)と、近場で『1泊』がメインとなっています。ただし『2~3泊』も28.3%と多く、※2旅費平均は推計6.9万円 (前年6.2万円)。『10万円以上』と答えた方が22.4% (昨秋調査13.7%)もあり、財布のひもがやや緩む傾向が見られます。

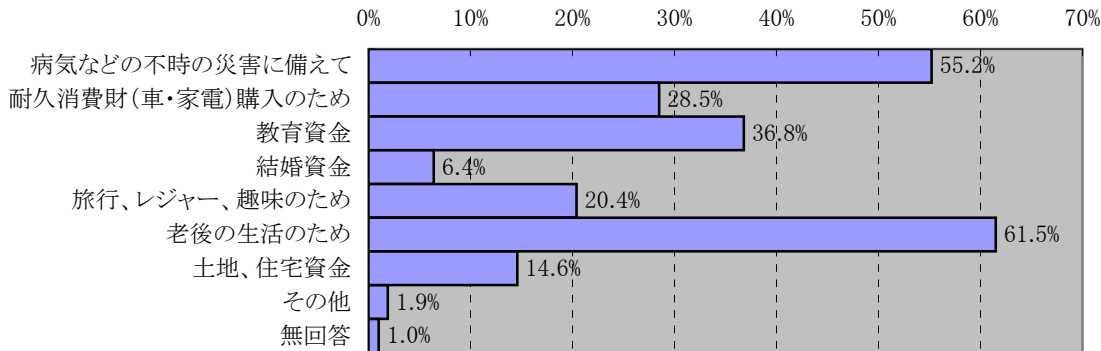
「旅行の予定」2013年春調査

「旅行の予定」2012年秋調査



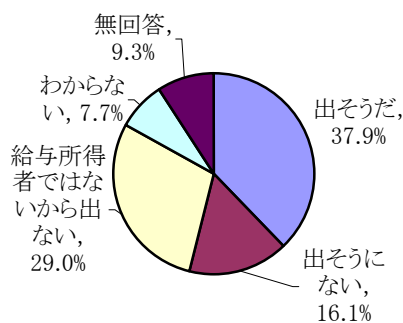
3. 「貯蓄をしている」方が81.0%を占め、1世帯当りの貯蓄額は「100万円～500万円」が多く、<sup>※3</sup>平均貯蓄額は推計で769万円(シニア層では1,000万円超)となっています。今後の貯金について『増やしていく』35.8%(前回32.5%)と貯金額がさらに増える傾向にあります。貯蓄の目的は、「老後の生活のため」61.5%(前回52.0%)が最も多く、次いで「病気などの不時の災害に備えて」55.2%(前回45.5%)となっています。年代別に比較すると、「老後の生活のため」や「病気などの不時の災害に備えて」と答えた方は高齢層ほど比率が高く、「教育資金」と答えた方は若年層ほど高くなっています。

貯蓄の目的(複数回答)



4. 夏のボーナスは『出そうだ』37.9%(子育て層やファミリー層では約60%の高率)となっており、『増えそうだ』+『同じくらい』が59.4%(子育て層では73.7%の高率、昨秋調査では34.4%)と、明るい見通しとなっています。ボーナスの使い道は、「貯蓄」4.3割(昨冬4.0割)や「その他」2.6割(昨冬3.5割)が多く、「その他」の内、『生活費繰り入れ』が34.0%を占めるなど、ボーナス=即商品購入とはいかないようです。夏のボーナスでの購入予定品は、「子供服・ベビー服」や「婦人服・洋品」「紳士服・洋品」が多くなっています。

夏のボーナスの予定



夏のボーナスの使い道

買物	1.2 割
旅行・レジャー	0.8 割
貯蓄(保険含む)	4.3 割
借入金返済	1.1 割
その他	2.6 割

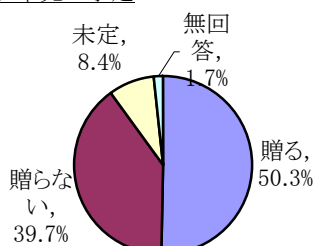
その他内訳

教育費・仕送り	21.0%
車検費用	22.3%
生活費繰り入れ	34.0%
その他	4.5%
無回答	46.3%

5. 今年のお中元を贈る方は約5割ですが、子育て層で32%、シニア層66%と相反する傾向となっています。贈答先は「親戚」80.7%が多く、1箇所当りの予算は「3千～5千円」で<sup>※4</sup>平均予算は5.1千円となっています。お中元予定商品は、1位「ビール」、2位「果物詰合せ」、3位「洋菓子詰合せ」となっており、定番の「ハム」や「食用油」「洗剤」ではなく、夏らしい冷涼感のあるものが中心です。

- もらって嬉しいものベスト3は、1位「商品券、ギフト券」、2位「ビール、酒類」、3位「洗剤」で、『日頃使っていたり、飲食しているもの』や『自分では買えない高級食材や果物・スイーツ』などが喜ばれるようです。
- もらいたくないものワースト3は、1位「ビール、酒類」、2位「菓子類、スイーツ」、3位「洗剤」で、『好みに合わないものや趣味性の強い飾り物、日持ちのしないもの、ギフトカタログ、タオル』が挙げられています。ただし個人差が大きく、「ビール、酒類」「洗剤」はベスト3、ワースト3ともに入っています。

お中元の予定



お中元予定商品ベスト5

1位	ビール	27.3%
2位	果物詰合せ	14.8%
3位	洋菓子詰合せ	13.1%
4位	ハム	11.5%
5位	素麺	10.9%

もらって嬉しいもの

1位	商品券・ギフト券
2位	ビール、酒類
3位	洗剤

もらって嬉しくないもの

1位	ビール、酒類
2位	菓子類、スイーツ
3位	洗剤

## 6. 生活や食、環境、福祉について

各項目について、自分の考えと合っているかどうかを百点満点で点数付けしてもらい、平均点を較べました。平均点が70点以上の項目は、「自然の脅威」「家族の絆」「安全安心な食品」「安全性重視のエネルギー政策」「少子化対策」の5項目となっており、「少子化対策」は昨秋(71.4点)より2.0ポイント上昇しています。一方で、「外食」や「災害に対する備え」は50点を下回っており、「災害に対する備え」は昨秋より3.0ポイント低下しました。

- 生活・くらしでは、「家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている」の点数が高くなっています。一方、「家族みんなが楽しむためによく外食する」や「余暇は家族サービスや旅行で過ごすことにしている」の点数は低くなっており、家族の絆を強め、外食や旅行を控えて家で過ごす「おうちごはん」の傾向が強くなっているようです。昨秋調査と比べても傾向はあまり変わらないようです。
- 食、農業では、「多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する」の点数が高く、「家計のため低価格の食品を探して購入する」が低くなっています。昨秋調査と比べても傾向はあまり変わっていません。
- 災害防止、環境では、「自然の脅威の前では人の力には限界がありどうしようもない」の点数が高い一方で、「我が家の災害に対する備えは十分である」や「災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う」が低くなっています。総務省の「社会生活基本調査」によると、全国のトップクラスだった福井県のボランティア活動の年間行動者率は年々低下しており(平成13年38.7%→平成18年度33.6%→平成23年度31.3%)、今回調査の結果を裏付けるものとなっています。
- エネルギー政策では、「安全性重視のリスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ」74.1点(昨秋74.5点)が高くなっていますが、「経済性重視の安定供給可能なエネルギー政策を取るべきだ」は61.1点(昨秋59.4点)とやや向上し、子育て層62.3点や嶺南地域65.8点は他の年代・地域より高くなっています。
- 福祉、税金では、「将来の社会福祉政策充実のため、重い税負担は仕方がない」の点数が低く、「高齢化対策(年金制度等)や少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある」という意識が高くなっており「少子化対策の充実」の声は、「高齢化対策の声」より高く、昨秋調査からさらに高まっています。

生活や食、環境、福祉への意識

		平均点		
		12年秋	13年春	
ア)生活・くらし	A. 家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている	75.5	76.7	➔
	B. 自分で自由に使える時間は、家で過ごすのが好きなほうだ	65.3	64.8	➔
	C. 余暇は、家族サービスや旅行で過ごすことにしている	53.2	54.6	➔
	D. 家族みんなが楽しむために、よく外食する	42.8	43.3	➔
	E. 家計にゆとりがあった場合、消費するよりも貯金しておく	68.4	68.9	➔
イ)食・農業	A. 多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する	73.9	74.8	➔
	B. 家計のため低価格の食品を探して購入する	56.9	57.0	➔
	C. 多少値段が高くても地産地消を大切にす	63.6	64.1	➔
	D. 輸入農産物は敬遠する	68.0	69.4	➔
	E. 風評被害が心配だが、高放射線量産地の食品は手が出ない	65.5	66.4	➔
ウ)災害防止・環境	A. 自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない	79.2	79.7	➔
	B. 我が家の災害に対する備えは十分である	47.7	44.7	➔
	C. 少々不便でも、積極的に省エネに協力したい	68.0	67.2	➔
	D. 災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う	51.9	52.0	➔
エ)エネルギー政策	A. 経済性重視の、安定供給可能なエネルギー政策を取るべきだ	59.4	61.1	➔
	B. 安全性重視の、リスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ	74.5	74.1	➔
オ)福祉、税金	A. 将来の社会福祉政策充実のため、重い税負担は仕方がない	54.8	56.0	➔
	B. これ以上の税負担は耐えられない	67.7	66.5	➔
	C. 高齢化対策(年金制度等)の充実を図る必要がある	69.6	69.2	➔
	D. 少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある	71.4	73.4	➔

- ※1. D. I. 値…ダイアイチと読みます。diffusion index(景気動向指数)の略語です。  
 {(良い+やや良い)-(悪い+やや悪い)}÷(変わらないを含めた合計) の比率を表します。
- ※2. 旅費平均…アンケートの回答、「1万円未満～10万円以上」の回答数より算出しました。  
 1万円未満:0.5万円、1～5万円:2.5万円、5～10万円:7.5万円、10万円以上:15万円として平均値を算出しました。
- ※3. 平均貯蓄額…アンケートの回答、「100万円未満～2千万円以上」の回答数より算出しました。  
 100万円未満:50万円、～500万円未満:250万円、～1千万円未満:750万円、～2千万円未満:1500万円、2千万円以上:3000万円として平均値を算出しました。
- ※4. お中元1箇所当たり平均予算…アンケートの回答、「3千円未満～2万円以上」の回答数より算出しました。  
 3千円未満:1.5千円、～5千円:4千円、～1万円:7.5千円、～1万円5千円:12.5千円、～2万円:千円、10万円以上:15万円として平均値を算出しました。